

令和4年度第1回大船渡市立博物館協議会 議事録

開催日時：令和4年6月3日（金）10：00～11：00

開催場所：大船渡市立博物館 多目的ホール

出席者：【委員5名】

西村文利、中嶋敬治、熊谷美知子、小松英子、佐藤真優子

【事務局5名】

教育長 小松伸也、教育次長 遠藤和枝、博物館長 鈴木満広、
館長補佐 佐藤貴裕、主任学芸員 工藤やよい

1 開 会

鈴木館長の司会で開会。5人の委員の出席で協議会が成立していることを報告。

2 挨拶

小松教育長

西村会長

ここからは、大船渡市立博物館管理運営規則第9条第2項の規定により、西村会長が議長となり進行。

3 報 告

- (1) 令和3年度大船渡市立博物館事業実績について
事務局から昨年度の事業実績について説明した。

(委員)

月別入館者数で令和3年4・5月が増加しているが、なぜか。

(事務局)

令和2年度のようにコロナの感染拡大による閉館がなかったことと、碁石海岸観光まつりが開催されたことにより増加している。

(委員)

博物館スクールの実績は4校の小学校だが、今年度の予定は決定しているのか。

(事務局)

毎年度末、市内小学校に6年生向けの博物館スクールを開催する旨周知し、申し込みを受けて実施している。

6年生の社会の縄文土器や理科の大地の成り立ち、総合学習の地域のことを学ぶを勉強する際に教材として活用されている。

(委員)

博物館敷地内のワスレナグモ調査と珊瑚島地質・生物確認調査は、どのような調査を行っているのか。

(事務局)

ワスレナグモの調査については、岩手県立博物館にクモ専門の学芸員がおり、2年前に当館で開催した碁石海岸での自然観察会に講師で来てもらった際、この周辺で50年ぶりにワスレナグモが確認され、その学芸員の分布調査を当館学芸員が手伝っている。

珊瑚島地質・生物確認調査については、教育委員会教育総務課文化財係で年1回程度珊瑚島の上陸調査を行う際、当館学芸員も同行し、珊瑚島の地質や植生の状況がどのようになっているのか調査を行っている。

今後もこのような事前調査を行いながら、テーマを見つけ継続的に調査を行っていききたい。

(委員)

資料収集に係る民俗資料調査をどのような関係で住田町上有住まで行って調査しているのか詳しく教えてほしい。

(事務局)

当館の活動方針は、気仙地域の自然と文化に関する資料や情報を収集し研究を行っているが、現在の市境で自然や文化が変わってくる訳ではなく、当市を知るためには周辺地域も知らなければならない。

調査や収集範囲の線引きとしては、基本的に気仙地域だが、場合によってはその他の地域へも拡げている。

今回、住田町上有住の場合は、使用した際の情報等が明確であることから寄贈を受けた。

(委員)

どこの博物館も運営が厳しく、さまざまな分野の学芸員を採用することは難しいと思う。

そのような中で大船渡市立博物館は地質や考古を得意としていると思うが、植物や昆虫の分野の学芸員がいないことから、その分野などで県内博物館のネットワークを活用して、地域の基本的な調査を行うことが大事と感じている。

市内では大窪山の生物や地質について、民間事業者に調査を任せるのではなく、市立博物館として県内博物館のネットワークを活用し、基本的な調査を行ってほしかった。

このような調査などを行いながら、博物館の存在意義を社会的に認知されるようにしていくのが大事と感じている。

また、ジオパークについても、関谷洞窟等がジオサイトの一つだが、内容がわかるような表示がないことから、ジオパーク推進協議会や担当部署へ積極的に周知を図るよう働きかけてほしい。

(事務局)

さまざま分野の学芸員を地方の博物館が採用していくのは現実的に厳しく、それを補うために専門研究員をお願いするとともに、岩手県立博物館を含めた他の博物館と相互に連携を図っており、今後も博物館のネットワークを活用しながら事業を進めていきたい。

民間事業者による開発事業に関しては、博物館としては慎重に対応する必要があると考えている。

ジオパークのご意見については、ジオパーク推進協議会や当市の担当である観光部署へ情報を伝えていきたい。

これらの必要なご提言については、今後の博物館事業に反映させていきたい。

4 協 議

- (1) 令和4年度大船渡市立博物館事業計画について
事務局から今年度の事業計画について説明した。

(委員)

大船渡町方面から来た時、博物館の案内看板が末崎町のロータリーに来る前に設置されてあればよいと考えることから検討してほしい。

(事務局)

今後、検討していきたい。

(委員)

開館40周年記念展示第2期(10~12月)「シン・大船渡」の内容について教えてほしい。

(事務局)

開館から40年が経過していることから、常設展示も最新の学術研究と若干違ってきている部分があり、この40年間で新しくわかってきたことの中で、ワスレナグモや当市では最古と言われていたシルル紀の4億年前をさらに遡る地層や岩石が越喜来甫嶺地区のあたりで見つかった調査成果などの新発見について展示したいと考えている。

(議長)

ほかに意見はないか。今年度事業に限らず、博物館の運営に関して委員の皆様の見解をいただきたい。

(議長)

昨年度開催した「おおほらの海と陸—大洞貝塚国史跡指定20周年—」に係る講演会はわかりやすくとても良かったと感じている。

博物館は入館者数が課題かと考えてきたが、その講演会を聴講して人数を少

人数でも中身が重要だと改めて感じるとともに、今後、生涯学習の観点からも機会を提供していくことが大事だと感じた。

(事務局)

昨年度の企画は、コロナ禍のため参加人数を絞り、教育総務課主催で博物館と連携して開催した。

企画を開催して感じことは、ほんとうに楽しんでもらえるようなものとなったことと、工夫次第でよいものにできるようになったことが大きな収穫だった。

今後、これらをどのように拡げていけるのかを博物館と教育総務課文化財係で勉強しながら頑張っていきたい。

(委員)

碁石海岸に博物館が移転して40周年を迎えることから、この場所にある意義をもう少し発信したほうが良いと感じている。

(事務局)

碁石海岸に移転する時はいろいろ論争があったようだが、碁石海岸が文化財に指定されていることなどからこの場所に移転した。市民が訪れるには地理的に不便な面もあると考えるが、教育普及という面で学校と連携を図るとともに、入館者の半分以上が観光客であり、当市の様々な情報を発信するためにも碁石海岸に当館が移転したという意義があるとも考えていることから、これまで以上にさまざまな媒体を活用しながら情報を発信し、動き始めた防災学習ネットワークによる市内の施設との連携も図りながら情報発信に努めたい。

(委員)

地質観察会の参加者は、出土した化石等は持ち帰れるのか。

(事務局)

地質観察会では基本的に岩石や化石を採取するが、採取の許可を取りながら、場所を選んで開催しており、これまでの参加者は持ち帰っている。

なお、国立公園内は地質観察会であっても法令に抵触することから採取はできない。また、海辺の観察会で採取したのもも漁業権等に抵触する可能性があることから、海に戻してもらっている。

(委員)

子育て世代の意見として、小さい子供は博物館を見学している間、待つことができない場合が多いことから、キッズスペースや館の入口のあたりにイスなど腰を掛けられるものがあればよいと思う。

(事務局)

今後、検討していきたい。

(議長)

委員の皆様からいただいた意見を、今後の博物館事業に活かしていただくようお願いする。

5 その他

委員及び事務局から特に発言なし。

6 閉 会

鈴木館長が閉会を宣言。午前 11 時終了。